

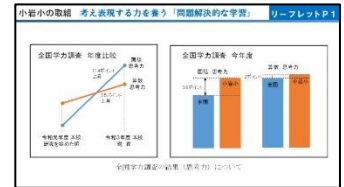
## 司会 (副校長)

- この時間は「保護者・地域向け研究発表」として、「考え表現する力を養う問題解決的な学習 (小岩小授業モデル)」についてスライドを使いながらご説明します。
- あわせてお配りしたリーフレットも開きながら、お聞きください。
- スライド画面の右上には、リーフレットのページが記されています。
- なお、教育のことをご説明するため、専門的な内容もあり、難しく感じられるかもしれません。その際は子供たちを育てようとする学校・教員の努力を感じていただければ幸いです。
- また、予定時間より伸びる可能性があります。ご了承ください。
- 最後まで、よろしくお願いいたします。
- はじめは、校長より説明させていただきます。



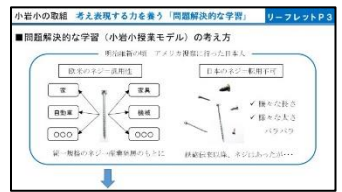
**校長**

- 会場の皆様、オンライン視聴の皆様、本日はご多用のところ、ありがとうございます。
- ★小岩小では、令和元年度より新しい学習指導要領で重視される「思考力・表現力・判断力」を、子供にもわかりやすい「考え表現する力」として指導や研究に取り組んできました。
- 画面は、国語と算数の「思考力」についての全国学力調査の結果です。数値は向上しています。ただし、これはあくまでも「学校全体の傾向」です。
- 大事にしたいのは、★画面にもある通り、「子供一人一人の状況」です。そのため授業中に活動の様子や発言などを確認したり、放課後にノートや作品などを評価したりしています。小岩小では、このことを「行動観察」と言って、次の指導に役立て、子供一人一人の力を養っています。
- ★さて、問題解決的な学習の裏付けとなるのが、今、国連が主導し「誰一人取り残さない社会に実現を目指すSDGsの考え方」です。江戸川区も積極的に推進しています。
- 文科省では、SDGs17の目標の4番目「持続可能な開発のための教育＝ESD」の中で問題解決的な学習の重要性を示しています。
- このように問題解決的な学習は、次代を担う子供たちに必要な「考え表現する力」を養う重要な学習です。
- 本校は、この学習を令和元年度より国語と算数を軸として、音楽・図工・巡回指導・弱視通級の学習に拡大し、現在に至っています。
- これ以降は、研究統括主任に説明させます。



**研究統括主任**

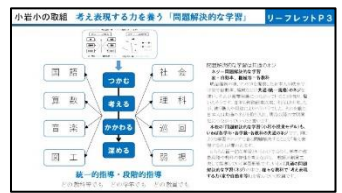
- ★画面をご覧ください。小岩小では、「つかむ」「考える」「かかわる」「深める」の4つを各教科共通の学習のステップとして取り入れています。



- このことを説明するために「明治維新のころ、アメリカを視察した日本人の逸話」についてご紹介します。
- 明治維新のころ、アメリカに行った日本人が驚いたことがあります。それは今日当たり前のように目にする「共通規格のネジ」の存在です。当時の日本では、鉄砲伝来以来、ネジはあったものの、長さも太さも全くバラバラなものでした。一方、欧米のネジは家や自動車、家具や機械など統一規格のネジが存在し、それは産業発展のもとになったといわれています。そこには使う職人や用途によってネジが変わっていた日本と、誰が何に使おうといつも同じネジを使っていた欧米との違いがあります。



- ★このことは学校の学習指導においても同じことが言えます。例えば、当時の日本のネジのように、指導の仕方が違っていたら、保護者の皆様も「先生が代わってしまうと教え方も変わってしまうのではないか」、「国語の指導と算数の指導が違っていると子どもは戸惑うのではないか」など心配になるのではないのでしょうか。子どもも先生によって学習の進め方が違うと戸惑うとともに、学力が向上しづらくなります。



- ★そこで本校では、どの教科でも、どの学年でも、どの教員でも同じような指導（小岩小ではこれを統一的指導と呼んでいます。）を重視しています。また、お子さん一人一人の状況や学年に応じた適切な指導（小岩小ではこれを段階的指導と呼んでいます。）も重視しています。

- もちろん、これは画一的な学習というわけではなく、各教科の育てるべき力と担当するお子さんたちの状況を踏まえながら、各教員が創意工夫する指導の在り方です。いわば共通の問題解決的な学習、これは先程のネジにあたりますが、その中で、様々な教科で「考え表現する力」を育てていく取組です。

- ★次に、小岩小授業モデルの4つの学習ステップをもう少し詳しくご説明します。

学習過程	児童の主な学習
つかむ	①見通しを確認し合おう。 ②自分で考えよう。
考える	①文章や問題から明らかなことや、もっと考えたいことをつかもう。 ②めあてをつくらう。
かかわる	①ペアやグループで話し合おう。 ②みんなで話し合おう。
深める	①たしかめよう。 ②ふり返らう。

まず、「つかむ」場面では、子供は文章や問題から明らかなことや、もっと考えたいことをつかみ、「めあて」を作ります。

次に「考える」場面です。ここでは、まず学習の見通しを持ちながら自分一人で考えていきます。

さらに「かかわる」場面ではペアやグループで話し合ったり、みんなで話し合ったりして、一人一人の考えを認め合ったりよりよい考えに練り上げたりします。

そして最後の「深める」場面では、きょうの学習を確かめたり振り返ったりします。

- 本日の授業では、1年から3年生は算数、4年から6年生は国語の授業をご参観いただきました。この2つの教科について、もう少し詳しく、学習指導統括主任より説明します。

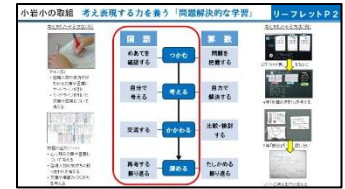
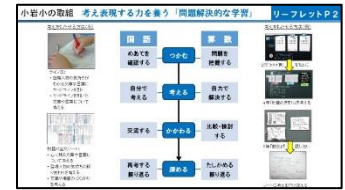
## 学習指導統括主任

- ★では、本日の授業で行った国語、算数における「問題解決的な学習、本校の「小岩小授業モデル」の具体的な学習の流れをご説明します。
- ★最初に、国語の問題解決的な学習です。

国語では、まず、その学習に入ったときに、物語全体を読み、特に心に残ったところを物語全体が書いてある「全文シート」に印を付け、それを基に、みんなで考えたい「めあて」を決めます。そして、毎時間、学習を進めながら、その日の「つかむ」の場面で改めて「めあて」を確認します。「全文シート」は、その後も、物語全体から中心人物の気持ちの移り変わりや、文章や場面のつながりを考えていく学習で活用します。

- 次に「考える」場面についてです。ここでは「めあて」について文章に書かれている言葉や文を基に自分で考えます。物語文では、中心人物の心情やその変化が分かる部分にサイドラインを引き、そこについての考えを書いていきます。ここでは、まず、中心人物の立場になって考えます。
- 「かかわる」場面では、ペアやグループ、学級全体で考えを交流します。その際、物語のどの言葉やどの文から考えたのか、根拠を示しながら話し合うことで、自分と友達の考えを比べたり、考えを広げたりしていきます。
- 最後の「深める」場面では、皆で話し合ったことを基に、今度は自分の立場から考えます。物語文では、自分はそのような中心人物についてどう考えるのかを書き、話し合っって考えをまとめ、振り返ります。
- ★次に、算数の問題解決的な学習です。なお、本日の3年生の算数は都教委が進める「習熟度別指導」のため学年を3つのコースに分けて学習を行いました。

- まず、算数の「つかむ」では学習問題を確認します。その学習問題について話し合い、疑問に思うことや今までの学習と違うところをとらえて、子供たちで今日の「学習のめあて」を決められるように指導しています。
- 次に「考える」場面です。ここでは子供一人一人が学習のめあてにそって、問題に取り組みます。一つの考えだけでなく、違った考えや表し方でも取り組むように促します。
- さらに「かかわる」場面では、ペアやグループでそれぞれの考えを伝え合い、その後、全体で、考えの同じ点、異なる点を確認しながら、よりよい考えにしていきます。
- 最後の「深める」場面ではみんなでまとめたことをもとに、今日学んだことが他に生かせるか適用問題に取り組み、確かめます。そして今日の授業について今までの学習とのつながりやこれからの学習にどう生かせるか振り返ります。
- 次に学年ごとに本日の授業についてご説明します。まずは1年生です。



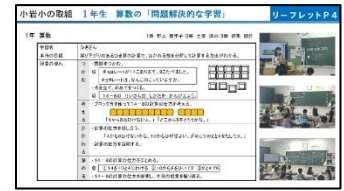
1年

- ★1年生の算数では、「繰り下がりのあるひき算の計算の仕方」を考え・理解させることを目標としました。
- つかむ場面では、「チョコレートが14個あって8個食べた際、残った数」を考えました。残った数を考えることから $14 - 8$ という式を立てましたが、「4から8は引けないね。どうしよう。」という問題点からその計算の仕方を考えることを今日のめあてにしました。
- 考える場面ではまず、一人一人が $14 - 8$ の計算の仕方を考えました。ある児童はチョコレートの代わりに丸をかいて8個をとって数を数え6であることをみつけました。またある児童は4から8は引けないと考え10から8をひき2、2と残っている4を合わせて6と答えを導きました。またある児童はこの引く場面を式に書き表しました。
- かかわる場面では話し合いを通していろいろな考えの違うところや同じところを話し合い、より良い考えを導き出せるようにしました。

まず、具体的に丸をかいて答えを6とみんなで確かめました。また「4から8は引けないから10から8を引けばいい」という考えと、「14を10と4に分けて10から8を引いた式」は同じことを表しているということに気づかせました。

このように図、言葉、式を結び付け、「 $14 - 8$ のように4から8がひけないときは、10のまとまりから引く。」ということを学級全体で確認しました。
- 深める場面では、今日学習した繰り下がりのひき算が、ほかの問題にも適用できるか確かめました。 $11 - 7$ のように引かれる数や引く数がちがっても、10から7を引けばできることを確認していったのです。

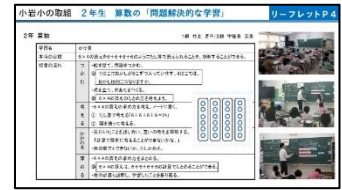
今日の学習が他の場面でも使うことができるか確かめるとともに、振り返りの中でたし算と似ているところやさらにできそうなことを振り返って授業を終えました。
- 次は2年生の算数についてご説明します。





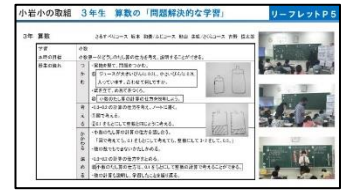
2年

- ★2年生の算数では、掛け算の答えをかけられる数をかける数分足せば答えができることを考え、理解させることを目標としました。
- つかむ場面では、箱に入ったお菓子の絵を見せ、子どもたちに場面のイメージを持たせました。また、お菓子の図をかいて数を数えるだけでは大変であり、計算で求めた方が楽ではないか、という思いを子どもたちにもたせるように促しました。
- 考える場面ではまず、一人一人が $6 \times 4 = 24$ の計算の仕方を考えました。お菓子の代わりに丸をかいて24であることをみつけたり、6のまとまりが4つあることに気付いて、答えが24になることを導き出したりしました。
- かかわる場面では、話し合いを通していろいろな考えの違うところ、同じところを探り、より良い考えを見出していきました。  
まず、図を使って数を数えさせ、答えが24であることを確認しました。その後、かけ算は、1つ分×いくつ分であることを使って、たし算で求めることができることを説明させました。その際、図を使って説明ができるように促しました。
- また、今回扱った $6 \times 4$ 以外にも同じようにたし算で求めることができないか問いかけ、どのようなかけ算でもできるように促しました。
- 深める場面では、今日学習した言葉をつかって「まとめ」を書きました。そして、他の問題を行い、再度たし算でかけ算の答えを求めることができるか確認しました。その際に、式からどのような場面が想定されるかということについて考えさせ、式と具体的な場面をつなげるように促しました。最後に振り返りを行い、「今日、学習してわかったことはなにか」等、本時の学習感想を書きました。
- 九九を唱えることができることも大切ですが、数や式の意味を理解しながら学習を進めることができるように、今後も指導していきます。
- 次は3年生の算数についてご説明します。



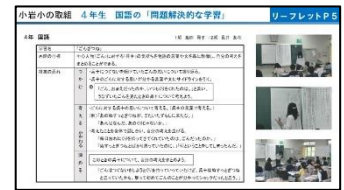
3年

- ★3年生の算数では、小数のたし算の計算の仕方を考え・理解させることを目標としました。
- つかむ場面では、実物をみてからジュースが大きいびんに0.3L、小さいびんに0.2Lあって、合わせて何Lかを考えました。合わせてというところから、 $0.3+0.2$  という式を立てましたが、「今までは整数のたし算だったけれど、今回は小数のたし算になっている。小数だとどうしたらよいだろう。」という問題点から、小数のたし算の計算の仕方を説明することを今日のめあてにしました。
- 考える場面ではまず、一人一人が  $0.3+0.2$  の計算の仕方を考えました。例えばある子供は図で考えて、0.1が3ますと2ます分だから合わせて5ますで、0.5だと考えました。
- かかわる場面では、話し合いを通して、図と式と数値を結び付けて考えることを重視しました。まず、具体的に図のめもりを書いて、3めもりと2めもりを合わせて5めもり、1めもり0.1だから0.5と確かめました。  
次に式で表すと  $0.3+0.2=0.5$  であることを図と照らし合わせながら確認しました。  
最後に0.1が何個分かを考えると、0.3は0.1が3個分、0.2は0.1が2個分、合わせて0.1が5個分で0.5だと気付きました。
- 深める場面では、今日学習した小数のたし算の仕方はどうなるのかをまとめていきました。小数のたし算の仕方は、0.1をもとにして、整数の計算と同じように考えることができることを全体で確認しました。  
今日の学習が他の場面でも使えることを確かめ、整数のたし算と似ていることやさらにできそうなことを振り返りました。
- 次は4年生の国語についてご説明します。



4年

- ★4年生の国語では「ごんぎつね」という物語文を学習しました。中心人物「兵十」の「ごん」に対する気持ちを物語の言葉や文を基に想像して自分の考えをまとめることを目標としました。
- 「つかむ」場面では、まず、今までの学習から兵十に対するごんの思いについて振り返り、今日の場面は、兵十の思いが分かる言葉や文が多いことから、兵十の立場から書かれていることに気付かせました。  
次に、「ごんぎつね」の学習の始めに考えた「皆で考えたいこと」と考え合わせ「『ごん、おまえだったのか、いつもくりをくれたのは。』と言い、うなずいたごんを見たときの兵十について考えよう。」を今日のめあてにしました。
- 「考える」場面では、サイドラインを引いた兵十のごんに対する思いが分かる言葉や文について、一人一人が「兵十の立場」になって考えました。そして、この場面で、今までのごんに対する兵十の思いが変わっていることに気付いて書き込む様子が見られました。
- 「かかわる」場面では、「兵十はごんのことをどう思っていたのか」について、「物語のどの言葉や文から考えたか」を示しながら話し合いました。「ぬすときつねだと思っていたごんが、まさか栗をくれていたなんて。」など、自分の考えを友達のと比べながら話し合うことで、一人では考えつかなかったことにも気付き、更に考えを深めていきました。
- 「深める」場面では、皆で話し合ったことを基に、「そんな兵十のことを自分はどう思うか。」という観点から考え、「ごんは兵十につぐないを続けていたけど、兵十はうって初めてごんの思いに気付いている。」など、自分の考えを書き表しまとめていくことができました。このような学習を国語の考え表現する力につなげていきます。
- 次は5年生の国語についてご説明します。

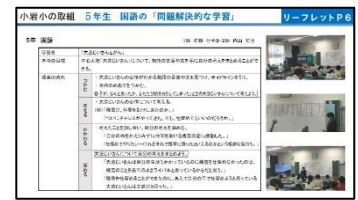




5年

- ★5年生の国語では「大造じいさんとがん」という物語文を学習しました。中心人物「大造じいさん」について、物語の言葉や文を基に自分の考えをまとめることを目標としました。
- 「つかむ」場面では、大造じいさんの気持ちがわかる物語の言葉や文にサイドラインを引かせました。その中で特に考えを深めたい文章や言葉について着目し、今日のめあて「が、なんと思ったか、ふたたび銃をおろしてしまったときの大造じいさんについて考えよう。」をめあてにしました。
- 考える場面ではまず、大造じいさんの気持ちについて考えさせました。ある子供は「ついにチャンスがやってきた。でも、仕留めてもいいのだろうか。」と大造じいさんの複雑な感情を掴んで考えることができました。
- かかわる場面では、自分と友達の考えの異なった点や似ている点を比べ、自分の考えを深めていきました。
- 「仕留めてやりたい…けれどそれで残雪に勝ったといえるのかという複雑な気持ち。」という考えなど友達と一緒に考えたことでよりよい考えを生み出すことができ、自分の考えを深めることができました。
- 深める場面では、大造じいさんの気持ちの変化を踏まえて、大造じいさんについて自分の考えをまとめました。

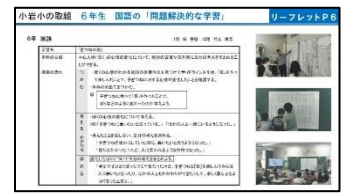
「大造じいさんは自分の生活もかかっているのに残雪を仕留めなかったのは、残雪のことを長年のよきライバルと思っているからだと思う。」と物語を全体から捉えて考えをまとめる子供がいました。
- このような学習を継続的に行っていき、児童が物語を豊かに想像しながら読み深め、考え表現できるように今後も指導していきます。
- 次は6年生の国語についてご説明します。



6年

- ★6年生国語では「きつねの窓」という物語文を学習しました。中心人物「ぼく」の気持ちの変化について物語全体を通して、文章や言葉を基に自分の考えをまとめることを目標としました。
- つかむ場面では、中心人物「ぼく」の子ぎつねに対する気持ちが、会ったばかりの時と、一緒に窓を作った後では、変わったことに注目しました。そして「子ぎつねに会って窓を作ったことで『ぼく』はどのように変わったのか」を考えることを今日のめあてにしました。
- 考える場面では、まず一人一人が「全文シート」という本文全てが一読できるシートを読んで、子ぎつねに対する「ぼく」の気持ちが想像できる言葉や文を見つけてサイドラインを引き、その描写から、中心人物「ぼく」の気持ちを考え、ワークシートに書きこみました。
- かかわる場面では、話し合いを通して、自分の考えをより明らかにしたり、友達の考えや表現の仕方を比べたりするように促しました。自分にはなかった考えは、ワークシートに友達の考えとして書き加えて、気持ちの変化について考えを深めることができました。
- 深める場面では、子ぎつねに会って「窓」を作ったことで変化した中心人物「ぼく」について、自分はどうかを考えました。

「始めは狩りの獲物としか見ていなかったのに、終わりの方では、また会いたいと友達のように思ったぼくは優しい気持ちもてるようになったのだと思う。」や「始めは人との関わりがなかったけれど、きつねと会って窓を作ったことで人というもののよさがわかって、楽しい生活を送って行ったと思う。」など中心人物についてより深く考え、自分の考えを文章にまとめることができました。
- 次に授業公開はありませんでしたが、音楽と図工についてご説明します。



**専科**

- ★**図工・音楽の授業でも考えを表現する力を養うために「問題解決的な学習」に取り組んでいます。**
- ★**「つかむ」場面では、児童と一緒に振り返り、その日の学習のめあてを決めるようにしています。**  
例えば、図工では、はじめに生活に身近な紙コップを出し、日頃はどのように使っているかを聞いてみてから、「では紙コップを並べたり、積んだりしたらどうだろう。」と問いかけて、めあてをつかむ工夫をしました。
- ★**「考える」場面では、めあてを基に自分の力で考え表現することを大切にしています。**  
例えば音楽の合奏の学習では、自分だけ正しく演奏できても、友達と速さを合わせたり、強さを工夫したりしないと、曲の感を味わうことができないため、一人一人が考えて活動するように指導しています。
- ★**「かかわる」では、対話や鑑賞、発表をしながら、他の人の作品や演奏などに触れる活動を行っています。**  
例えば、図工では、「考える」場面の個人製作でやってみたことを生かして、友達と協力をしてグループで製作をするようにしました。  
そして、他のグループの作品を鑑賞し、自分とは違う表現に触れ、その後の自分たちの作品に生かせるような活動をしました。
- ★**図工や音楽の「深める」場面では、鑑賞や表現など、子供自身が気付いたり、感じ取ったりするなど、様々な思いをもちます。**  
そこで互いの思いを伝え合ったり、ワークシートに記入した内容を発表したりするなどの活動を行います。子供はこうした活動を通して、自分の表現に取り入れ、自分の表現を深めていきます。
- 次に授業公開はありませんでしたが、巡回指導についてご説明します。



## 巡回指導

- ★巡回指導では、保護者の方の相談を受けて、必要に応じて一人ひとりに合わせた指導をしています。目標を立て、集中力を高めたり、コミュニケーションをはかったりするなどの内容を、個別指導や小集団指導の中で行っています。
- 「つかむ」では、授業の見通しがもてるよう流れを伝えたり、めあてを伝えたりしています。活動によっては、めあてを意識させるために、選択肢を提示し、その中から特にがんばりたいことを児童に決めさせることもあります。
- 「考える」では、めあてを達成させるためにはどうすればよいかを具体的に考えさせます。すぐに答えを教えるのではなく、児童自身が気付くことができるような声かけをしたり、実際に教員たちで手本を見せたりしています。
- 「かかわる」では、活動のメインとなるゲーム的活動や話し合い活動を行います。ゲーム的活動ではルールを守ることや協力することを学ばせています。また、話し合い活動では自分の意見を伝えたり意見を譲ったりする経験を積むことができる活動を設定しています。
- 「深める」では、めあてについて振り返りを行います。具体的に振り返ることができるように話し方の手本を見せたり視点を絞ったりしています。また、教員からの評価ではできなかったことではなく、できたことを伝えることで、自信をもってクラスで過ごせるように励ましています。
- 次に授業公開はありませんでしたが、弱視通級学級についてご説明します。



## 弱視通級

- ★まず、ひまわり学級（弱視通級指導学級）とは、どんな学級が説明させていただきます。  
ひまわり学級とは、日常生活に見えにくさを抱えた児童が、その見えにくさのためにつまづきがちな活動をしたり、ルーペや単眼鏡、タブレット端末などの使い方を学び、これらの機器を活用して効率よく学習できるようにしたりする学級です。普段は地域の学校で学習し、決まった曜日や時間にひまわり学級に通います。基本的に、1人1人の視力や見え方に合わせた個別指導を行っています。
- ひまわり学級の指導でも、「問題解決的な学習」を取り入れた授業を行っています。各学年や巡回指導と異なる点は、最初の「つかむ」場面に「体験する」活動が入っていることです。これは、理科の火を扱った実験や、図工の電動のこぎりでの活動など、見えにくさのために実施が難しい活動を安全に体験することです。
- また、「考える」活動では、どうしたら見やすく活動することができるか、上手にできるか方法を教員と一緒に考えます。
- その後の「かかわる」活動にて、実際に活動して試行錯誤したり、今までの経験から考えたり、ほかの弱視児童との交流をすることで、自分の考えや深めていきます。
- 最後の、「深める」場面では、考え方ことや学んだことを自分のクラスでどのように活用するか、今後の生活でどう生かせるのかなど決めます。こうした学習の中で、子供の考え表現する力が深まっていきます。
- また、1時間で解決できない場合には、もう一度「考える」・「かかわる」を繰り返して、自立に向けた学習に取り組んでいます。
- 以上で、小岩小学校の実践の発表を終わります。





## 司会 (副校長)

- ★ご清聴ありがとうございました。
- 来年度は、140周年の節目であり、新しい校舎での学びが始まります。
- 新しい校舎という「外見」だけではなく、子供たちに「考え表現する力」を養うという「中身」も充実させていきます。
- 本日はありがとうございました。

